



vol.
01

北海道の木で板壁をつくる

北海道は70%が森に囲まれた日本一の森林大国。でも、実際に道産森林資源が活用されているのは30%足らずで、建築や家具に使われているのはそのうち半分だけなんだ。食料自給率が200%なのに対してあまりにもさびしい状況だね…。木材は、持続可能なエコロジー建材の代表だ。その最大の理由は、二酸化炭素を吸収して、酸素を供給する空気の循環システムを持っていること。北海道の森林を維持管理して、消費と再生の循環サイクルを守るためにも、“北海道の木”を積極的に使った住まいづくりが大切なんだ。

◎今回の素材 & テーマ

北海道産のカラマツとスギを使った外装の板壁仕上



黒く染まったカラマツの木酢液浸透材



さまざまに加工された道南スギの板壁材



カントリーカラーに塗装した杉の板壁材



有機栽培の亜麻仁油が原料の自然健康塗料

おいしい料理をつくるためのレシピがあるように、心地よい家をつくるためのレシピだってある。人にも環境にもやさしい自然派住宅をつくるため、エコ空間デザイナー御用達、天然素材の使い方教えます。



北海道産カラマツの木酢液仕立て

素材 北海道産カラマツ

カラマツは、針葉樹では珍しく秋に葉が落ちるので山の景色もすっかり変わる。周辺に生えるキノコが“落葉”と呼ばれているのはこのためだ。最近、建築材料として見直されてきたニューフェイス。松の仲間では、肌は粗いが重硬で木目がくっきり浮き出てきれい。欧州では外壁材として使用されている。

作り方

- 表面がザラザラしたラフ仕上げの板を選ぶ。表面積が増え耐久性も増すのだ。
- 板の張り方で表情もずいぶん変わるよ。縦張りの方が長持ちだけど、横張りは板を重ねて張る下見板にするのだ。
- 加工してもらった板を木酢液のプールへ漬け込み全面浸透させる。数日経ったら引き上げて乾燥させると、天然の防腐剤効果を発揮するよ。
- 乾いた板を現場に運んで、いざ施行開始。ステンレス製のスクリュー釘やビスでしっかりと止めよう。
- メンテナンスフリーと言っては大きさだけど、何もせずに長く使えるのが最大のメリット。古くなつてみずぼらくなつたら木酢液を上塗りしても良いし、天然塗料で着色塗装も可能なのだ。

道南スギを使った板壁の自然塗料仕立て

素材 道南スギ

北海道の道南地方限定の杉は、通称“道南スギ”と呼ばれていて、松に比べて軽軟なため断熱性能も高く水湿性にも優れている。本州ではポピュラーな建築材料だが、北海道での使用実績は少ない。独特の香りがあり内装にも使いたい。

作り方

- 表面がザラザラしたラフ仕上げの板を選ぶ。板の張り方で表情もずいぶん変わるよ。デザインに合わせて加工された板が販売されているのでお好みをチョイス。
- 板を選んだら、施工前に塗装を済ませるのがベスト。塗料はドイツボス社の自然健康塗料で、日本の気候に合わせて作られた“タヤエクステリア”は塗り易く、嫌な臭いもしないのですぐ乾いてしまう。
- 塗装はローラーを使って塗ると作業も早い。細かな溝などは細い刷毛を併用して2回塗りで仕上げると長持ちするよ。
- 板張りは、やはりステンレス製のスクリュー釘やビスでしっかりと止めよう。
- 塗装仕上げは定期的なメンテナンスが必要になるよ。10年を目処に塗り替えが必要だけど、条件により変わってくる。傷んだ部分だけ取り替えて上塗りするだけなので、他の外装仕上げと比べても費用は少なくて済むのだ。



エコ空間デザイナー 西條 正幸 Profile

人の健康と環境にやさしい空間づくりを目指し、北海道の無垢の木と自然素材にこだわった建築デザイン事務所(有)ビオプラス西條デザイン代表取締役。2010年4月から1年間、北海道新聞朝刊に「『農を楽しむ』西條さんの菜園便り」を連載。2011年、エコスタイルで暮らす「やさしい自然派住宅」を北海道新聞社から出版。